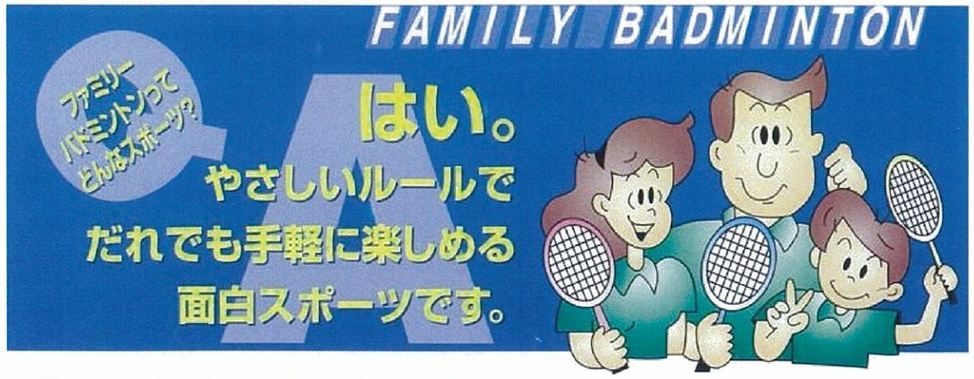


H22-07-31

「ファミリーバドミントン」って・・・?

ファミリーバドミントンは、昭和63年に京都で開催された京都国体の「バドミントン競技会場地」となった長岡京市が、手軽にバドミントンを広く親しめる独自のニュースポーツとして考案しました。

バドミントンはスピードがあるため、広い年齢層では難しく、誰でも手軽にできるものはないか、とアイデアを出し合い、日本の遊びの原点でもある羽根つき遊びとミックスさせるという案が提案され考えられました。

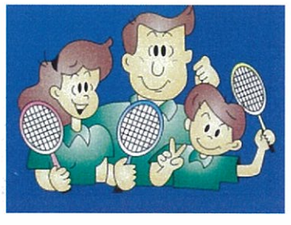
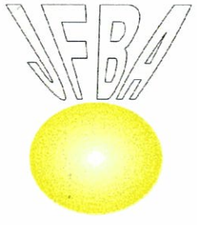
用具の開発にあたっては、いろいろな実験を重ねた結果、ラケットはシャフトを短いものに、シャトルは最初トスバッティング用のスポンジボールとバドミントン用のナイロンコックをつけたものを作り、滞空時間を長くすることによって空振りを少なくし、目標としていた誰でもが手軽にできるスポーツになりました。
広く普及振興を図るため、ミズノ株式会社のご協力により用具の商品化にこぎつけ、今では全国のスポーツ用具店で取り寄せ購入できるようになりました。
子供からお年寄りまで、「誰もが、いつでも、どこでも、自分の好みや能力に合わせて、気軽に楽しめる」のが、ファミリーバドミントンの特徴であり、仲間との交流、家族とのふれあい、健康・体力つくりなど、さまざまな目的で楽しまれています。

ファミリーバドミントンの特徴として、

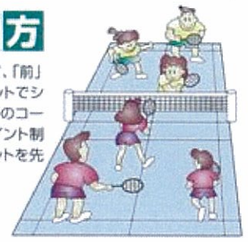
1. 誰でも手軽に、安い費用でできる。
2. バドミントンコートを使用するため、ほとんどの体育館でプレーできる。
3. バドミントンと比べて、初めての人でも容易にプレーできる。
4. ラケットのシャフトが短いため、手のひらで打つようにシャトルが打てる。
5. スポンジボールに羽根がついているため、スピードが抑えられ、打ち込みが禁止されているので、初めての人でもラリーが続く。

～夢中になれるニュースポーツ　ファミリーバドミントン

バドミントンのスリルや面白さをそのままに、手軽さと簡単なルールで楽しさをアップしたのがファミリーバドミントンだ。
スポンジ製ボールにバドミントンの羽根を付けたものをやや短めの専用ラケットで打ち合う。バドミントンのダブルスコートを使い、コートに入れるのは3名。前衛1名、後衛2名に分かれ、サービス権がくる度に時計回りにローテーションする。シャトルは2回以内で相手コートに打ち返すなど、バドミントンとバレーボールを合わせたようなルールだ。得点は1セット15点。3セット中2セット先取した方が勝ちだ。1チームの編成人数は各大会の要項で決定することができる。例えば、多くの人が試合に出られるように、1チーム9人以内とし、1セット目に出場したプレイヤーは連続して2セット目に出ることはできないが、3セット目には出場できるとする方法もある。

ゲームの進め方



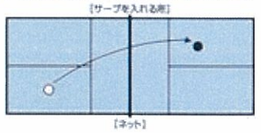
簡単に言うとバドミントンのコートを使って、「前」1人と「後ろ」2人の1チーム3名でラケットでシャトルを空中で打ち合い、2回までに相手のコートに返すスポーツです。得点はラリーポイント制で1セット15点で、3セット試合して2セットを先に取ったチームが「勝ち」となります。

1 まずジャンケン。サーブをとるか、コートをとるか。

まずジャンケンをして勝った方が「サーブ」をとるか「コート」をとるか決めます。

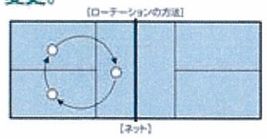
2 サーブは下から打つこと（シャトルが腰より下）、相手側のコートの左へ打つことが決まり。

「サーブ」は必ず下から打ち、サーブをする人は3人のうち「後ろの右側」にいる人です。サーブを入れる所は必ず相手コートの左側です。もしシャトルがネットをさわって入ってもセーフとします。また相手チームのサーブを受ける人は「後ろの右側」にいる人だけです。



3 得点を取ったら時計回りにポジション変更。

相手チームのサーブの時に、自分のチームが勝って得点を取った場合は時計回りの方向に1つ位置を変わり（これをローテーションと言います）、後ろの右側に来た人がサーブをします。



こんな場合は要注意しよう!

- 後衛はサービスラインよりも前でプレーしてはいけません。但し前衛はオールコートでのプレーが可能です。
- シャトルは2回以内に相手コートへ返します。
- メンバーチェンジは、1セット2回まで認められます。
- チェンジエンド は各セットが終わった時に行います。但し3セット目は一方のチームが8点を取った時に行います。
- ラリー中にシャトルを打った瞬間、シャトルが打点よりも下にさがった場合はフォルトとします。
- 得点は1セット15点とし、14点オールとなったときは2点先取したチームを勝者とします。

他にも、こんな場合には ――

- 高齢者・児童が行う場合はバドミントン・シングルコートを使用してもかまいません。
- 青・壮年が行う場合はネットの高さを2mにしてもかまいません。
- 幼児・児童が行う場合はネットの高さを低くしてもかまいません。

しまった!!

ファミリーバドミントン「べからず集」

競技者が次のような行為をした場合、相手チームの得点となります。（フォルト）

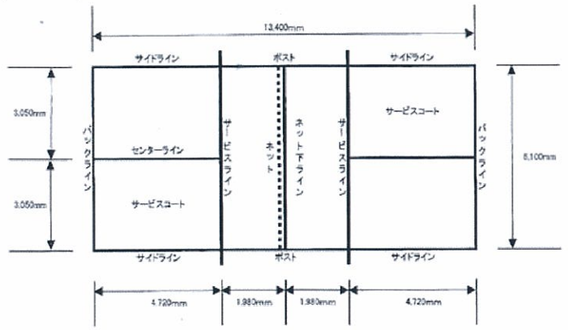
- オーバーネット
- ホールディング
- ドリブル
- タッチネット
- 打ち込み
- オーバータイムス
- シャトルが競技者の持つラケットでヒットされなかった時

フットフォルトは、1回目は注意、2回目からはフォルト。

ファミリーバドミントンのルール

H22-07-31

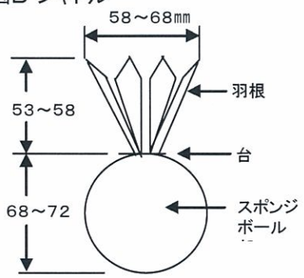
図A　コート



第1条　コートは、長方形で図Aのとおり40mm幅のラインでレイアウトする。

第4条　ポストは、コート面から1,550mmの高さとする。

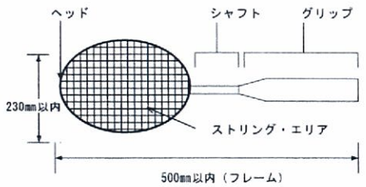
図B シャトル



第11条　シャトルは、次の各号の基準に合致するもので、飛行特性がなくてはならない。各部位の形状は、図Bのとおりである。

(1) シャトルは合成素材で作られた羽根を合成素材で作られたスポンジボールに取付けたものとする。
(2) 羽根の長さは、53mmから58mmの範囲で先端から台までが同じ長さでなければばらない。
(3) 羽根の先端の広がりは、直径58mmから68mmの円形とする。
(4) スポンジボール部の直径は、68mmから72mmで円形とする。
(5) シャトルの重さは、11gから12gとする。

図C　ラケット



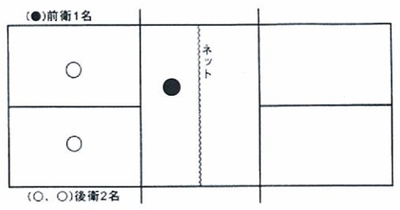
第12条　ラケットの各部位は、次の各号のとおりとする。各部位の名称は、図Cのとおりである。

(1) ラケットの主な部位は、グリップ、シャフト、ストリング・エリア、ヘッド、フレームという。
(2) グリップは、プレーヤーがラケットを握るための部分である。
(3) ストリング・エリアは、プレーヤーがシャトルを打つための部分である。
(4) シャフトは、グリップとヘッドをつなぐ部分である。
(5) ヘッドは、ストリング・エリアの外枠の部分である。
(6) フレームは、ヘッド、シャフト及びグリップの総称である。

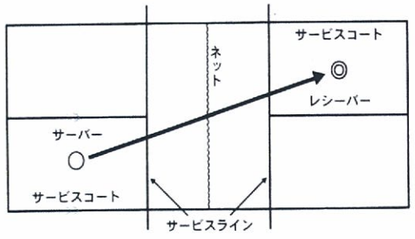
第18条　ホイッスルが行われるまでの3人の位置関係は、図Dのとおりとする。

(1) 主審のホイッスルにより、競技が開始された後の前衛のプレーヤーは、自軍サイドであれば全ての場所からプレーすることができる。
(2) 主審のホイッスルにより、競技が開始された後（インプレー中）の後衛のプレーヤーは、自軍サイドのサービスラインを踏み込むことも踏み越えることもできない。ただし、後衛のプレーヤーが左右に入れ替わることはかまわない。

図D　プレーヤーの位置

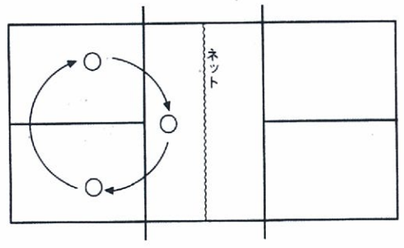


図E　サービスを入れるところ



● サーブは後衛右側のプレーヤーが必ず下から打ち、相手側コートの左側に入れる。
サーブを受けられるのは相手チームの後衛右側のプレーヤーのみ。

図F　ローテーション



● サービスサイドからサーブ権が移ってきた時、時計回りに1つローテーションし、サービスを開始する。

第20条　サーブ権を持っているサイドを「サービスサイド」といい、その相手サイドを「レシーブサイド」という。

第21条　シャトルは、2打以内で相手サイドへ返す。また、シャトルに触れるのは、一人1回とする。

第22条　ラリーのとき、シャトルを打った瞬間、打点より下にシャトルが下がってはいけない。

第32条　サーバーは後衛の右側の人とし、主審のホィッスルにより、サービスを開始する。

第34条　レシーバーだけが、サービスを打ち返すことができる。

【注意をすべきルール】

●後衛はサービスライン（延長上も含む）より前でプレーしてはいけない。（第18条）

● メンバーチェンジは1セット2回まで。（大会要項で決める）

● 各セット終了時にチェンジエンドを行う。
但し3セット目は一方のチームが8点を取った時点で行う。（第30条）

● ラリー中にシャトルを打った瞬間、シャトルが打点よりも下に下がった場合はフォルトとなる。
（打ち込みはいけない）（第37条3）

● 14点オールとなった時は2点先取したチームを勝者とする。（第27条）

フォルト

しまった!!

ファミリーバドミントン「べからず集」

競技者が次のような行為をした場合、
相手チームの得点となります。（フォルト）

●オーバーネット　●ホールディング　●ドリブル
●タッチネット　●打ち込み　●オーバータイムス
●シャトルが競技者の持つラケットでヒットされなかった時

フットフォルトは、1回目は注意、2回目からはフォルト。

下記の反則をした場合は、相手チームに1点

・オーバーネット・・・　ラケットなどがネットを越えて相手コートに 入った
・ホールディング・・・　シャトルをラケットに乗せて運んだ
・ドリブル・・・・・・　1人で連続してシャトルを打った
・タッチネット・・・・　ラケットおよび身体がネットに触れた
・オーバータイムス・・　シャトルの返球に3回以上打った
・ラインクロス・・・・　サーバーがラインを踏んでサービスした
後衛がサービスラインを踏んだ（超えた）、前衛がネット下ラインを踏んだ（超えた）
・ラケットでシャトルを打てなかった
・相手のコートに体の一部が入った
・前衛と後衛が接触をした

下記の反則をした場合は、1回目は注意、2回目からはフォルトとなる。チームで1回
・サービスの時、軸足（前足）の裏全体がコート面に触れた状態で静止しなかったとき。（フットフォルト）
・サービスを腰から下で打たなかったとき。（オーバーウェスト）

JFBA
日本ファミリーバドミントン協会
手軽さとやさしいルールで
楽しさがグンとアップ！